

27日

信心の力、題目の力は無限です。人間が、だれでももっている「希望の力」を無限大に拡大し、増幅する力が、題目にはあるのです。だから、仏法の信仰とは、ひ弱な「心の慰め」ではない。(408ページ)

『希望対話』とは？

未来に生きゆくみなさんへ、最大の尊敬をこめ、この本を贈ります—『希望対話』(写真)の中で、池田先生は同書について自らの心境を綴っています。



学生文化新聞で連載開始。中等部員の悩みに、池田先生が真剣に耳を傾け全魂を込めて答え、励ましを贈ってく

ださっています。「『いじめ』どうする?」「頭がいいって どんな人?」など、勉強や友情、いじめなどをテーマに語り合われています。皆さんの興味や関心のあるところから結構です。ぜひ手に取ってみてください。※文末の数字は、『希望対話』普及版のページ数です。

23日

どんな人の中にも「仏界」—「仏の生命」がある。それは燃えたぎる太陽のような「勇気のかたまり」です。だから、勇気が「ない」のではない。あるのだが「出さない」だけです。勇気は「出す」ものなんです。(320ページ)

28日

本は知識をくれる。本は感動をくれる。本は勇気をくれる。本は思いやりをくれる。本を読む習慣さえ身につけておけば、その人の道に「希望」が消えることはないのです。(148ページ)

19日

御本尊がすごいから、すごい力が出るのです。しかも、その力は「御本尊が与える」のではなく、もともと自分の中にあつた無限の生命力を「引き出す」のです。そこが大事なのです。(277ページ)

29日

「受け身」になったら、どんな自由な世界であっても「不自由」な自分になる。逆に「攻め」の姿勢になれば、どんなに不自由な環境であっても「自由」を味わえる。(115ページ)

24日

どんな性格であろうと、自分らしく、「誠実に生きていこう!」と決めてがんばっていけばいいのです。その誠実さという「心の炎」が、自分の性格を、よい方向へ、よい方向へと、光らせてくれるのです。(327ページ)

20日

御本尊は「鏡」です。自分の心が映る鏡です。だから「御本尊を大切にすると人は、御本尊から大切にされる」—これを覚えておいてください。これ一つを覚えていけば、人生は盤石です。(285ページ)

30日

自分らしく、自分がいちばん願っていることを題目にこめていけばいいのです。すぐに結果は出なくても、祈っていくことによって、必ず「よい方向へ」「よい方向へ」と、希望が開けていくことは、間違いない。(61ページ)

25日

自分で決めたことを、一つ、やりきってごらん。それが自信になる。そういう人は、自然に輝いていくものです。(333ページ)

21日

信心は一生涯のものです。あせることはない。青春時代に「生涯、信心をつらぬく」土台を築けばいいのです。今まで、できていなかった人も、これから挑戦を始めればいい。始めれば、その瞬間から、全宇宙があなたの味方になるのだから! (286ページ)

31日

「実力」をつけることです。「実力」とは、知性も、健康も、創造力も、思いやりも、心の強さ、明るさも、あらゆる点が含まれます。(72ページ)

26日

「希望こそ力なり」です。人間は、自分が「こうなろう」と、心に強く念じたとおりの人間になれるものです。心に描いた「自分像」に近づいていけるのです。(400ページ)

22日

勇気ある人になってください。勇気ある人が幸せです。勇気を失ったら、人間、何も残らない。反対に、すべてを失ったとしても、勇気さえ残っていれば、いちばん大事なものが残っているのです。(319ページ)